

# PLによる上級・中上級日本語学習者の指導

— 日本語上級・中上級教科書を使用したPLによる  
日本語指導の分析と成果及び学習者の習得の関係 —

池 原 明 子

## 1. はじめに

本校においては、日本語の基礎教科として、学習者は8単位の日本語を履修することが義務付けられており、3キャンパス（渋谷、三宮、福岡）で同じシラバスに沿って講義を進めていくことになっている。テキスト、授業進度等も、当然のことながら決められている。以上の条件のもと、筆者が担当した、上級・中上級の学習者の日本語能力がより上達し、主体的に自律して学習に取り組み、習得していける教授法を模索した。

語学上達の要件は様々であるが、まず、学ぶことを楽しめること、そのための条件は様々考えられるが、筆者は以下の3点を考えてみた。

- ①上達の過程が認識できる。具体的には、前回できなかったことができるようになったなど。
- ②自らの誤り（発音・文法・語彙認識）の自覚とその訂正、改善ができ、それが認識できる。

さらに

- ③ 互いに競争し、励まし合える仲間がいる。などが挙げられる。

この条件を満たす教授法として、大学の日本語上級クラスの日本語の指導にピア・ラーニング（Peer Learning 以後 PL）を取り入れた。（2013-2015）その成果に基づき、さらに中上級クラスにおいても取り入れ、日本語能力の差、指導期間による学習効果に相違があるのかを検討した。

近年、日本語教育の教室活動における「対話」の導入が再評価され、「対話」の定義付け、日本語教育への導入による成果について論じられている。対話に基づくピア・ラーニング (PL) はここ20年日本語の指導に有効な教授法として取り入れられ、その学習効果が指摘されている。

PL とは対話を通して学習者同士が互いの力を発揮し、協力して学ぶ学習方法であり、協働、人と人が互いの力を出し合い、協力して創造的な活動を行うことである (館岡2015)。読解や作文の課題を遂行することによって、スキルを向上させるという狭義の目的と、仲間と一緒に学ぶことによって社会的な関係を構築し、自己の考えを検討、視野を広げ、自己発見をするという広義の目的がある。

現在まで、作文指導における、ピア・レスポンス (池田1999、2004、岩田・小笠2007他)、読解指導のピア・リーディング (館岡)、聴解の指導のピア・リスニング (横山2009) などの日本語教育の多くの分野に於いて実践報告がなされ、その成果が実証されている。

筆者は2000年から、短期 (1年) 集中日本語コースの英語圏、非漢字圏の学習者を対象に、仮名学習、漢字学習、日本文化の指導へ PL を取り入れることによる成果をみてきた。英語圏の非漢字圏の学習者は PL に対し好意的であり、積極的に取り組む傾向があり、成果が上がるという報告がなされており、上記の実践に於いても成果がみられた。しかし、アジア系学習者については、学習者はピア・レスポンスに対して否定的だという報告 (田中・北1996、Mangelsdorf 1992) や、相反して、ピア・レスポンスの活動の分析の結果、アジア系・非アジア系混合のピア・レスポンスで両者に違いはなかったという報告もある (池田2000)。アジア系学習者を対象に PL を導入した場合、どのような成果があがるのか、教授法としての PL が有効に働くのかについては、アジア系学習者、特に中国人学習者、韓国人学習者を対象にした実践報告はなされているが、アジア系の多国籍の学習者を対象にした実践報告はあまりない。

本稿は、大学の基礎教科の日本語という枠内で、大学の方針に基づき、決

められた教科書を使い、決められたシラバスに沿って日本語指導を行うという条件の下で、多国籍アジア圏の上級学習者を対象に Peer Learning を導入することで、どのような成果が上がるのかを検証した成果を踏まえ、中上級レベルの非漢字圏、多国籍学習者に於いても同様の成果が得られるのかを検証するのが目的であり、2年間に亘って行った Peer Learning による日本語上級者の成果とその後約10カ月に亘って行った中上級者を対象にした日本語指導の実践報告である。

## 2. 実践の概要(1)

まず、アジア圏多国籍、上級レベルの学習者を対象に、本校に於いて使用が決められているテキスト、及び副教材(経済用語)を PL によるクラス活動を通して進めていくことによる、2年間の成果、特に各学習者、及び実践共同体としてのクラスの変容をみていく。

このクラスは本学の基礎教科の日本語で、週2回、必修のクラスであり、日本語上級レベルの学習者を対象としている。クラスの名称は日本語ⅣとⅤである。(日本語クラスは日本語Ⅰ～Ⅴまであり、Ⅳ、Ⅴが JLP テスト N1 レベル、上級者のクラスとなっている。)

PL の活動は学習者をペア又は、3人のグループとし、なるべく国籍、言語が違う相手と組むようにしたが、中国からの学習者が多く、いくつかのペア、グループは中国人同士の組み合わせとなった。

### 2-1

#### 2013年度春学期(2013年4月～9月)日本語Ⅳ

◆クラス参加者：学習者 27名 中国 17名 韓国 6名

ネパール 1名 ベトナム 1名 台湾 1名

ウイグル 1名

学習者の日本語能力：JLP テスト N1 8名 N2 19名

### 2013年度秋学期（2013年10月～2014年3月）日本語Ⅳ

- ◆クラス参加者：学習者 27名 中国 17名 韓国 6名  
ネパール 1名 ベトナム 1名 台湾 1名  
ウイグル 1名  
学習者の日本語能力：JLP テスト N1 8名 N2 19名

### 2014年度春学期（2014年4月～9月）日本語Ⅴ

- ◆クラス参加者：学習者 18名 中国 12名 韓国 5名  
ネパール 1名 台湾 1名  
学習者の日本語能力：JLP テスト N1 5名 N2 13名  
\* 全員が2013年度日本語Ⅳを履修した学生である。  
\* 入学時 N1 合格者は2年次日本語を履修する必要がないため、履修者は減っている。

### 2014年度秋学期（2014年10月～2015年3月）日本語Ⅴ

- ◆クラス参加者：学習者 18名 中国 11名 韓国 5名  
ネパール 1名 台湾 1名  
学習者の日本語能力：JLP テスト N1 11名 N2 6名  
\* 春学期 N2 取得者が7月 JLP テストで N1 に合格  
\* 全員が2013年度日本語Ⅴを春学期履修した学生である。

## 2-2 使用テキストとクラス活動の流れ

### 2-2-1 使用テキスト

- \*<sup>注1</sup> 学ぼう！にほんご 上級（専門教育出版）〈Vol. 6〉

## 2-2-2 使用テキストの構成と活動の流れ

### (1) この課を学ぶ前に

各課のテーマについて、学習者はペアの相手、グループのメンバーと話し合い、考えをまとめる。教師は教室内を回り、活動がスムーズに進められているか、確認する。

### (2) 新出単語 各項目に入る前に行う。

- ①教師の導入の後、ペア、グループで、各語の読み、発音を確認。
- ②学習者同士での各語の意味の確認。
- ③クラス全体での各語の意味の確認。

### (3) 本文の新出単語

(2)と同じ手順で行う。

### (4) 重要な文型と表現の練習

- ①教師の導入の後、ペア、グループで、文法項目、例文の確認。
- ②各学習者は各自練習問題をする。
- ③ペア、グループで各練習問題の確認。
- ④板書によって、クラス全体での文法項目と練習問題の確認。
- ⑤フィードバック（学習者同士、各自で誤りなどについて）

### (5) 読んでみよう

- ①段落毎にペア、グループで、内容・文法項目・語彙の確認。
- ②段落毎クラス全体での内容・文法項目・語彙の確認。
- ③フィードバック

### (6) 質問

- ①各質問についてペア、グループで話し合い、本文内容の確認。
- ②板書によって、クラス全体での内容の確認。特に答える際の文末の確認。
- ③フィードバック

(7) まとめよう

- ①各学習者は「まとめよう」の空欄を補充していく。
- ②ペア、グループで「まとめよう」の各空欄に入れた語、語句の対話による確認。
- ③板書によって、クラス全体での「まとめよう」の各空欄に入れた語、語句の確認。
- ④フィードバック

(8) みんなで話そう

- ①ペア、グループで各課の内容・自分の考え、自分の国について対話する。
- ②ペア、グループでグラフ・表の資料から分かることなどについて対話する。
- ③クラス全体で、グラフ・表の資料から分かることを確認。
- ④フィードバック

(9) 聞く練習

- ①各学習者は聴解問題を聞いて、各自質問の解答を考える。
- ②ペア、グループで各聴解問題の解答を対話によって確認。
- ③板書によって、クラス全体で聴解問題の解答確認。
- ④フィードバック

(10) 語彙を増やそう

- ①教師による各語の読み方、発音の導入。
- ②ペア、グループで各語の読み方、発音語彙を対話によって確認。
- ③ペア、グループで各練習問題の解答を対話によって確認。
- ④クラス全体で練習問題の解答確認。
- ⑤フィードバック

## (11) 総合発展練習

- ①ペア、グループで対話によって各自の考えをまとめると同時にペア、グループの考えをまとめる。確認。
- ②各自作文作成後、ペア、グループでピア・レスポンスによって作文を検討。
- ③フィードバック

## 2-2-3 実践期間と内容

## 2013年度春学期・秋学期（2013年4月～2014年3月）日本語Ⅳ

「学ぼう！にほんご」上級 Vol. 6

## 副教材

経済用語（「新日本語分野別重要単語」から経済用語のみ）

経済用語（作者作成オリジナルプリント、JUE作成経済用語より経済用語読みプリント）

## 2014年度春学期・秋学期（2014年4月～2015年3月）日本語Ⅴ

「学ぼう！にほんご」上級 Vol. 6

## 副教材

「学ぼう！にほんご」上級 Vol. 6」漢字プリント

（各課から60字抜粋したもの）

経済用語（「新日本語分野別重要単語」から経済用語のみ）

経済用語（作者作成オリジナルプリント、JUE作成経済用語より経済用語読みプリント）

## 新聞記事

2年度は各学期1回、新聞記事を分析、発表。

ペア、またはグループ（3人）で1つの記事を担当し、分析したのち、発表する。PLのみで行い、学習者の自律的学習に任せた。

### 3. 実践の概要(2)

次に短期間であるが、今年度(2015年)本校日本語履修者、アジア圏多国籍、中上級クラスの学習者を対象に、実践概要(1)の学習者と同じ条件のもとに(本校に於いて使用が決められているテキスト、及び副教材(経済用語)をPLによるクラス活動を通して進めていくことによる)10カ月における成果、特に各学習者、及び実践共同体としてのクラスの変容をみていく。

このクラスの学習者は上級レベル学習者のクラス、日本語Ⅳ、Ⅴのクラスと同様、本学の基礎教科の日本語学習者で、週2回、必修のクラスであり、日本語中上級レベルの学習者を対象としている。クラスの名称は日本語Ⅲである。(日本語クラスは日本語Ⅰ～Ⅴまであり、Ⅳ、ⅤがJLPテストN1レベル、上級者のクラスとなっているが、日本語ⅢはN1、N2レベルの学習者が対象となっている)

PLの活動は学習者をペア又は、3人のグループとし、実践概要(1)と同様の条件で、なるべく国籍、言語、学年が違う相手と組むようにしたが、国籍では中国からの学習者が多く、いくつかのペア、グループは中国人同士の組み合わせとなったのは実践概要(1)とおなじである。学年は主に学習経験が違う1年と3年を組み合わせるようにした。

#### 3-1

##### 2015年度春学期(2015年4月～9月)日本語Ⅲ

- ◆クラス参加者：学習者 32名 中国 19名 ネパール 6名  
ベトナム5名 台湾 1名 ウイグル 1名
- 学習者の日本語能力：JLPテストN1 0名 N2 11名  
N3 6名



### 2015年度秋学期（2014年10月～2015年12月）日本語Ⅲ

- ◆クラス参加者：学習者 31名 中国 19名 ネパール 3名  
ベトナム 6名 台湾 2名 ウイグル 1名  
学習者の日本語能力：JLP テスト N1 1名 N2 12名  
N3 1名

\*春学期・秋学期1年間履修の学習者と春学期のみ、秋学期のみ履修の学習者がおり、春学期・秋学期でクラスのメンバーは10人ほどが入れ替わり、学習者の構成が異なった。2013年度、2014年度の上級クラスが学習者の構成人員がほぼ同じだった点と条件が大きく異なる。

## 3-2 使用テキストとクラス活動の流れ

### 3-2-1 使用テキスト

\*<sup>註1</sup>「学ぼう！にほんご 中上級」（専門教育出版）〈Vol. 5〉

### 3-2-2 使用テキストの構成と活動の流れ

「学ぼう！にほんご 上級」（1）～（11）と同じ流れなので省く。

### 3-2-3 実践期間と内容

#### 2015年度春学期・秋学期（2015年4月～2015年12月）日本語Ⅲ

「学ぼう！にほんご」中上級 Vol. 5

副教材

- 「学ぼう！にほんご 中上級 Vol. 5」漢字プリント  
(各課から30字抜粋したもの)
- 経済用語（「新日本語分野別重要単語」から経済用語のみ）
- 経済用語（作者作成オリジナルプリント、JUE 作成経済用語より経済用語読みプリント）

## 4. 研究方法・分析

本研究の分析資料は上級クラスは(1)学期終了後に行った、アンケート調査、(2)毎週、各授業後に担当者が書いた授業記録、(3)2年次終了後に行った最終アンケート、(4)2年次終了後のインタビュー、中上級クラスは(1)(2)(上記)(3)4月～12月終了後に行ったアンケート(4)12月のインタビューである。

(1)から(4)の上級クラス・中上級クラスの資料を次の観点から分析した。

- ①学習者はPLによるクラス活動をどのように経験し、認識していたか。
- ②学習者はPLによるクラス活動を通してどのように学びを実感していたか。

### 4-1 各学期アンケートの分析

#### 4-1-1 2013年度春学期 (2013年4月～9月) (1年生)

全ての学習者がPLでの学習は初めてであり、幾人かの学習者にはとまどいもあったが、最終的には全員が仲間と学習することを楽しいと感じ、教師主導の教授法よりも集中力が増して、力が伸びたと思うと答えている。全員、友だちができた、クラスの雰囲気がよく、クラスに来るのが楽しいと答えている。

アンケート回答者：27名 中 25名 回答率 93%

中国 17名 ベトナム 1名 台湾 1名  
ウイグル 1名 韓国 4名 ネパール 1名  
ベトナム 1名

主なコメント：

- ・他の国の人と日本語で話すのは面白いです。(韓国)
- ・この授業ほど日本語でたくさん話せたことはありません。(韓国)
- ・みんな積極的に発言してよかったですと思います。(中国)

- 自分だけで勉強したら集中できなかった。グループでしたから集中できたし、何人も友達になった。(中国)
- 様々な国の留学生がおるから(いるから)各国の文化や慣習(習慣)なども分かった。(中国)
- 授業で1人ではなくて、自分のパートナーと一緒に勉強して、1人より効率がある。(中国)
- コミュニケーションができた。(中国)
- 言葉を学ぶのは楽しいと思った。(韓国)

#### 4-1-2 2013年度秋学期(2013年10月～2014年3月)(1年生)

後半6カ月でPLでの学習にも、慣れてきて、学習者は自律的に学習を進めるようになっていく。

アンケート回答者：27名 中 20名 回答率 74%

中国 12名 韓国 4名 ネパール 1名

ベトナム 1名 台湾 1名 ウイグル 1名

主なコメント：

- 授業の雰囲気がいいし、友達ができた。(中国)
- 日本語を学ぶだけでなく、それ以上のことを学んだと思います。  
(韓国)
- 友達ができた。(中国)
- パートナーが熱心で、分からない言葉や問題を説明してくれた(中国)
- クラスメイトと一緒に、単語や文の意味を勉強することは面白かった。  
(中国)
- いろいろな国の友達ができて、面白い文化が分かってきた。日本語の能力も上がった。(中国)
- 一緒に勉強して、自分の不足が分かってきた。(中国)

#### 4-1-3 2014年度春学期 (2014年4月～9月) (2年生)

2年目に入り、学習者は積極的にクラス活動に取り組み、楽しんで学習すると同時に仲間との交流を通して、自分の日本語の能力への認識が明確になり、上達したことも認識できるようになってきている。

アンケート回答者：18名 中 17名 回答率 94%

中国 10名 韓国 5名 ネパール 1名

台湾 1名

主なコメント：

- この授業だけはコミュニケーションをすることができ、座り、聞くだけではなく、楽しい雰囲気知知識を学んで、充実していた。(中国)
- 1年の時より、授業が面白くなって、日本語の授業が楽しくなりました。(韓国)
- 外国の人と交流が一番大きい。授業の雰囲気がいいし、発表も緊張しないでできた。さんよする(参加する)時間が多くて面白いです。(韓国)
- 自分で勉強するのが好きだけど、友達を作ってよかった。(台湾)
- パートナーと一緒に読んだり、問題を解いたり、お互いに勉強できました。力がどんどん上りました(つきました)(中国)
- 日本人、韓国人以外の友達できて、嬉しかった。大学2年間で一番良かったと思う授業であった。(韓国)
- クラスで友達できて、学習の雰囲気がすごく良かった。例えば、クラスに入ったら、家に帰った感じする。(中国)

#### 4-1-4 2014年度秋学期 (2014年10月～2015年3月) (2年生)

アンケート回答者：18名 中 17名 回答率 94%

中国 11名 韓国 5名 ネパール 1名

台湾 1

主なコメント：

- 対話をしながらするこの授業は会話の練習にもなってよい。(中国)
- 2年生になると、お互い認識できて、どんどん楽しい雰囲気になりました。日本語の力もつきました。(中国)
- みんなでコミュニケーションをとることがいいと思います。私語が多かったと思います。(中国)

#### 4-2 年間アンケートの分析

##### 2013年度(2013年4月～2014年3月)日本語Ⅳ(1年生)

アンケート回答者：27名 中 16名 回答率 89%

中国 10名 韓国 5名 ネパール 1名

##### 2014年度(2014年4月～2015年3月)日本語Ⅴ(2年生)

アンケート回答者：18名 中 16名 回答率 63%

中国 10名 韓国 5名 ネパール 1名

①「学ぼう！にほんご上級」を協働学習で勉強してきてどうでしたか。

- 1年次
  - a. 楽しかった 12名
  - b. あまり楽しくなかった 4名
- 2年次
  - a. 楽しかった 16名
  - b. あまり楽しくなかった 0名

②「学ぼう！にほんご上級」を協働学習で勉強してきて日本語がより上手になったと思いますか。

- 1年次
  - a. 思う 12名
  - b. 思わない 4名
- 2年次
  - a. 思う 16名
  - b. 思わない 0名

③協働学習は日本語を勉強するのにいい方法だと思いますか。

- 1年次
  - a. 思う 12名      b. 思わない 4名
- 2年次
  - a. 思う 16名      b. 思わない 0名

④協働学習と先生だけが教える方法（今までの教え方）とどちらが役に立つと思いますか。

- 1年次
  - a. 協働学習 14名      b. 今までの教え方 2名
- 2年次
  - a. 協働学習 15名      b. 今までの教え方 1名

⑤協働学習で勉強するとき、いっしょにした相手と上手に勉強できましたか。

- 1年次
  - a. はい 14名      b. いいえ 2名
- 2年次
  - a. はい 16名      b. いいえ 0名

⑥協働学習で勉強するとき、いっしょにした相手と何語で話しましたか。

- 1年次
  - a. 中国語で 2                      b. 日本語で 11
  - c. 日本語と中国語で 3      d. それ以外の言葉で 1
- 2年次
  - a. 中国語で 2                      b. 日本語で 11
  - c. 日本語と中国語で 3      d. それ以外の言葉で 1

⑦協働学習で勉強するとき、いっしょにした相手と何語で話すのがいいと思いますか。

• 1年次

- a. 中国語で 1                      b. 日本語で 14  
c. 日本語と中国語で 3          d. それ以外の言葉で 1

• 2年次

- a. 中国語で 0                      b. 日本語で 15  
c. 日本語と中国語で 2          d. それ以外の言葉で 0

⑧あなたはどちらの勉強方法がいいと思いますか。

• 1年次

- a. 協働学習 13      b. 今までの勉強方法 4

• 2年次

- a. 協働学習 14      b. 今までの勉強方法 2

⑨協働学習で勉強して、何が一番上達したと思いますか。(複数回答可)

• 1年次

- a. 聴解 2      b. 読解 3      c. 文法 4  
d. 発音・アクセント 5      e. 漢字 0  
f. 語彙(言葉) 3

• 2年次

- a. 聴解 3      b. 読解 3      c. 文法 4  
d. 発音・アクセント 5      e. 漢字 4  
f. 語彙(言葉) 3

⑩これからも協働学習で勉強しいていきたいと思いますか。

• 1年次

- a. はい 14      b. いいえ 2

• 2年次

- a. はい 15      b. いいえ 1

⑪あなたは協働学習の方法でうまくできたと思いますか。

- 1年次
  - a. はい 13    b. いいえ 3
- 2年次
  - a. はい 15    b. いいえ 1

⑫協働学習は日本語の勉強にはいいと思いますか。

- 1年次
  - a. はい 13    b. いいえ 3
- 2年次
  - a. はい 16    b. いいえ 1

#### 4-3-1 2015年度春学期（2015年4月～9月）（1～3年生混合）

全ての学習者がPLでの学習は初めてであり、半数の学習者が最初の数カ月はとまどっていたが、慣れていくにしたがって、最終的には全員が仲間と学習することを楽しいと感じ、教師主導の教授法よりも集中力が増して、力が伸びたと思うと答えている。全員、友だちができた、クラスの雰囲気がよく、クラスに来るのが楽しいと答えている。

アンケート回答者：31名 中 31名 回答率 97%

中国 18名 ベトナム 5名 台湾 1名

ウイグル 1名 ネパール 3名

主なコメント：

- ペア、グループで読むのはとてもいい。(ネパール) (中国)
- ペア練習は読み方を確認できていい。発音も聞いてよかった。(中国)
- 1年から3年まで幅広く、いろいろな人達と勉強できて、会話もできてよかった。(中国)
- 同じクラスの人と友達になれて、留学生生活が豊かになった。(中国)
- ペアの練習はとてもいい。(中国) (ネパール) (ベトナム)



- ペア、グループですので分からないところをよくチェックできるし、2人で意見をいうのでよく覚えらる。(ネパール)
- 2人で考えて意見をまとめて、教えあうことで、自分の能力が上がり、自信がつき、責任感も生まれる。(ベトナム、ネパール)
- 楽しい!! (中国、ネパール、ベトナム)
- 同じ国の人と組むのがいい。(中国、ネパール)

#### 4-3-2 2015年度秋学期 (2015年10月～12月) (1～3年生混合)

後半約2カ月半でPLでの学習にも、慣れてきて、学習者は自律的に学習を進めるようになっている。

アンケート回答者：20名 中 20名 回答率 100%

中国 11名 ネパール 3名 ベトナム 6名

\*コメントは主なものを抽出した。

①「学ぼう！にほんご中上級」を協働学習で勉強してきてどうでしたか。

a. 楽しかった 8名 b. あまり楽しくなかった 5名

★どうしてそう思いますか。a bどちらも理由を書いてください。

- 分かりやすかった。(2名)
- 自分の能力に合わせてできていい。
- いい雰囲気、速く上手になった気がする。
- みんなで協力して勉強するので集中できて、積極性が高くなる。
- 自分のペースでじっくりとできて、勉強しやすかった。

②「学ぼう！にほんご中上級」を協働学習で勉強してきて日本語がより上手になったと思いますか。

a. 思う 14名 b. 思わない 6名

★どうしてそう思いますか。a bどちらも理由を書いてください。

- 知らない単語を多く覚えた。漢字をたくさん覚えられた。
- 言葉や文法が上達した。

- 自分で分からないとき、分かる人が教えてくれる。
- 自分で分からないと、自分達で調べるので覚えやすかった。
- 効率がいいと思う。

③協働学習は日本語を勉強するのにいい方法だと思いますか。

- a. 思う 12名    b. 思わない 4名

★どうしてそう思いますか。a bどちらも理由を書いてください。

- やってみていい方法だと思った。
- 一緒に勉強すると速く覚えられる。
- 一緒にやるので分かるのが速くなった。
- しっかり勉強できた。

④協働学習と先生だけが教える方法（今までの教え方）とどちらが役に立つと思いますか。

- a. 協働学習 20名    b. 今までの教え方 0名

★その理由

- みんなで相談するのがいい。
- 簡単に勉強できる。
- 討論して問題の解決が得られた。

⑤協働学習で勉強するとき、いっしょにした相手と上手に勉強できましたか。

- a. はい 13名    b. いいえ 3名

★どんなことがうまくいったか。

- 文法・読解・質問・語彙・漢字・会話・言葉の練習と言葉の意味

★どんなことがうまくいかなかったか。⇒ 解答無し

⑥協働学習で勉強するとき、いっしょにした相手と何語で話しましたか。

- a. 中国語で 7    b. 日本語で 6  
c. 日本語と自分の国の言葉で 8    d. ネパール語で 0  
e. ベトナム語で 1

★それはどうしてですか。

- まず、日本語で説明、分からないとき自分の国の言葉で説明。
- 国が違うので日本語でしか話せない。
- 相手が同じベトナム人だから分からない言葉があったとき、日本語の説明が難しいのでベトナム語で話す。
- 日本語で分からなかったら、自分の国の言葉を使ったほうが分かりやすい。
- 母国語の方が分かりやすい。
- 相手が理解しやすい言葉で話すと意味がすぐ分かるから。
- 日本語で話すと日本語が上手になる。

⑦協働学習で勉強するとき、いっしょにした相手と何語で話すのがいいと思いますか。

- a. 日本語で 6
- b. 自分の国の言葉で（中国語・ネパール語・ベトナム語） 7
- c. 日本語と自分の国の言葉で 7

⑧あなたはどちらの勉強方法がいいと思いますか。

- a. 協働学習 14    b. 今までの勉強方法 2
- a b. どちらでも 2

⑨協働学習で勉強して、何が一番上達したと思いますか。（複数回答可）

- a. 聴解 2    b. 読解 6    c. 文法 6
- d. 発音・アクセント 5    e. 漢字 2
- f. 語彙（言葉） 6

⑩これからも協働学習で勉強しいていきたいと思いますか。

- a. はい 14    b. いいえ 4

⑪あなたは協働学習の方法でうまくできたと思いますか。

- a. はい 10    b. いいえ 6

⑫協働学習は日本語の勉強にはいいと思いますか。

- a. はい 10    b. いいえ 2

主なコメント：

- 分かりやすい。勉強しやすい。とてもいい教え方だと思う。(中国)  
(ネパール)
- 楽しくて、授業があまり退屈ではない。(中国) (ネパール)  
(ベトナム)
- 理解しやすい。積極的になれる。(中国) (ネパール)
- 分からないとき、みんなに相談して分かるようになった。(中国)
- いろいろな教え方があるが、PL はとてもいいから続けてほしい。  
(中国)
- 相手とすると覚えやすいし、分かりやすいが、時間がかかる。  
(ネパール)
- 意見が異なる時、どれが正しいか誰も決められないときがある。  
(ネパール) (ベトナム)

## 5. 結果とまとめ

Johnson et al.(1993) は、協働的学習の基本的構成要素として、①相互協力関係、②対面的-積極的相互作用、③個人の責任、④スモール・グループでの対人的技能、⑤グループでの改善の手続きの5つを挙げ、協働学習における情意面と社会面を重視している。

館岡(2005)は他者とともにある共通の目標に向かって協力して、活動するということは、他者の気持ちに気づき、互いに信頼しあえる共同体としてのクラス活動が構築されていく。競争的な活動と異なり、協働的な活動はともに学びあえる互恵的な共同体を作ることに貢献する。そのプロセスにおいて、自分以外の人間とどのようにコミュニケーションし、意思決定をしていくのかという社会的関係性が育成されていく、情意的面での効果も大きく、「互いに協働して行うことにより達成感が高まり、楽しさも増大する。」と述べている。

今回2013年から2015年2年に渡って行った協働的学習からは課題の達成のみではなく、個人の情意面、社会面における発達、さらには集団全体の成長が得られ、自己効力感や学習意欲が高まると同時に、仲間意識や人とのつながり感覚を育て、他者との相互作用の方法や協力のしかたを学ぶことができることが実践後のアンケート、インタビューの結果からも実証されたといえる。

具体的には①チームワークと、互いの協力によって問題解決をした達成感。②他者とのコミュニケーションの方策の会得－他者の意見を聴く、他者への配慮、自分の意見を理解してもらうための努力－ ③日本語運用能力の向上とその実感 ④①～③の総体としての自己の成長－特に自分の力の不足の自覚－があげられる。

学習者は日本語能力の伸びとともに、何よりも仲間意識が育まれたことを強く認識、それが、日本語のクラスへの参加を楽しいと感じ、出席率の伸びという結果を導いたと思われる。

2014年度約8ヶ月に渡って行った中上級学習者の実践に於いては、学習者のアンケート結果からは2年間の上級学習者の実践成果とあまり変わりのない結果を得られたが、ファシリテーターとしての教師の役割が成果を大きく作用することが分かった。更に期間の短さ、構成メンバーの多様さという条件の下での成果を求めるための方策の追及も今後の課題となるであろう。

## 6. 今後の課題

2年間、同じ学習者を対象に行ったPLによる指導では、ある程度の成果は得られ、各課題の遂行をこなしていく度に、学習者が活動に責任を持ち、積極的に課題に関わるように変容し、仲間意識も育まれていくことが分かった。続けて行った中上級者対象のクラスでも同様の成果がみられたが、いずれの学習者に対しても、学習者の十分なフィードバックの時間をあまり設けることはできなかった。大学の日本語の授業は1年がほとんどであり、6カ月、1年のコースで仲間意識を育て、PLを効果的に行っていくには、その学習者の変容を導く、ファシリテーターとしての教師の役割が大きいといえる。また、自分たちの活動を振り返る、フィードバックの時間を与え、修正していく機会を設けることが必要であり、できれば、各時間ごとに自分たちの取り組み方に対する振り返りの時間をもうけ、活動過程での早期の問題解決が行えるようにすることである。このことにより、短期間のPLにおいても、成果が得られると思われる。

### 注

- 1 学ぼう！にほんご 初級1 (Vol. 1) N5 レベル  
学ぼう！にほんご 初級2 (Vol. 2) N4 レベル  
学ぼう！にほんご 初中級 (Vol. 3) N3 レベル  
学ぼう！にほんご 中級2 (Vol. 4) N2 レベル  
学ぼう！にほんご 中上級 (Vol. 5) N1 レベル  
学ぼう！にほんご 上級 (Vol. 6) N1 レベル

今回調査対象の上級クラスでは「学ぼう！にほんご 上級 (Vol. 6)」を2年間、続けて調査した中上級クラスでは「学ぼう！にほんご 中上級 (Vol. 5)」を8カ月、テキストとして使用した。

### 参考文献

- 蔭山拓 (2015. 5) 「日本語における対話の観点」2015年度日本語教育学会予稿集
- 館岡洋子 (2015. 2) 『日本語・日本語教育を研究する』国際交流基金日本語教育通信
- 館岡洋子 (2005) 『ひとりでもむことからピア・リーディングへ：日本語学習者の読解家過程と対話的学習』東海大学出版社
- 房賢嬉 (2010. 1) 「韓国人中級日本語学習者を対象とした発音協働学習の試み」—発音ピア・モニタリング活動の可能性と課題—日本語教育 144号 p157-168
- 横山紀子他 (2009. 4) 「ピア・リスニングの試み」—海外の日本語教育における課題解決の視点から—日本語教育 141号 p79-89 大島弥生 (2009. 1) 「語の選択支援の場としてピア・レスポンスの可能性を考える」日本語教育 140号 p15-25
- 藤森弘子 (2010. 1) 「高度専門職業人養成課程における日本人学生と留学生の協働作業及びピア評価の試み」日本語教育 144号 p73-84
- 藤田朋世・フランプ・順美 (2009. 3) 「ピア・ラーニングの概念を取り入れたスピーチコンテストの試み」—重慶大学での実践報告—世界の日本語教育 19号 p199-213
- Johnson, D. W., Johnson, R.T., & Holbec, E. J. 1993 *Circles of learning: Cooperation in classroom*. Tokyo: Japan UNI Agency, Inc (杉江修治・石田裕久・伊藤康児・伊藤篤 (訳) 学習の輪—アメリカの協働学習入門—二瓶社)